

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：稲留康一 就任年月：2013 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：佐久間哲也
設 置 期 間	2015 年 04 月 ～ 2019 年 03 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床衝撃音遮断性能の測定・評価方法に関する諸課題や海外動向、予測手法を調査し各種検討を実施する</li> <li>初年度： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISO および海外の研究動向調査</li> <li>・床衝撃音予測手法に関する検討（調査）</li> </ul> </li> <li>2 年度： <ul style="list-style-type: none"> <li>・「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」の測定・評価方法による床衝撃音データの収集方法の検討</li> <li>・ ISO および海外の研究動向調査</li> <li>・床衝撃音予測手法に関する検討（調査）</li> </ul> </li> <li>3 年度、4 年度： <ul style="list-style-type: none"> <li>・「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」の測定・評価方法による床衝撃音データの収集および整理、衝撃源（タイヤとボール）の互換性検討等</li> <li>・ ISO および海外の研究動向調査</li> <li>・床衝撃音予測手法に関する検討</li> </ul> </li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し	
	主査：稲留康一（奥村組） 幹事：矢入幹記（鹿島建設）、朝倉巧（東京理科大学） 委員：岩本毅（三井住友建設）、井上勝夫（日大理工）、漆戸幸雄（フジタ）、田中ひかり（大成建設）、中澤真司（鉄建建設）、濱田幸雄（日大工）、平光厚雄（国総研）、藤橋克己（前田建設）、松岡明彦（戸田建設）、村上剛士（日総試）	
設置 WG (WG 名：目的)	固体音評価法検討 WG 床衝撃音以外の固体音に関する評価方法の検討を実施する	
2016 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. H28 年度大会オーガナイズドセッションを企画・運営した 2. FDTD 法（時間領域差分法）の現状を調査し利点、課題を整理した 3. ISO16283-2 を調査し今後の検討事項をリストアップした
委員会活動の問題点 ・課題	1. 委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

## 2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>固体音小委員会では音環境分野で関心の高い床衝撃音に関する検討を実施した。今年度の委員会成果としては以下のようなことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H28 年度大会オーガナイズドセッション「床衝撃音に関する最近の動向」を企画・運営した。床衝撃音に関する 5 編の発表が行われ、会場から積極的に意見や質問が出された活発なセッションとなった</li> <li>・床衝撃音データの収集に関する方針を検討した。衝撃源（タイヤとボール）の互換性については、まずは RC 造で実施する方針とした。具体的なデータ収集は次年度に実施する</li> <li>・予測法に関しては、FDTD 法（時間領域差分法）の現状について調査し利点および課題を整理した。また、拡散度法に関する調査を実施中である</li> <li>・ISO16283-2 を調査し、今後の検討事項をリストアップした</li> </ul>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。